

アンリ・マティス

●油彩画の作品を鑑賞しましょう

▶アンリ・マティスについて

マティスは、1869年にフランスに生まれました。法律家として働いていましたが、20歳の頃に盲腸で入院したときに、母親の勧めで絵画と出会い画家へ転向する決意をします。ゴッホ、セザンヌらの強い影響を受け、独自の表現を模索しました。ピカソとも交流を持ちながら、マティスは形も色もどんどん単純化させて、純粹に色彩の効果についての探求を続けました。晩年には十二指腸癌を患い、それを機に切り絵の新たな表現にたどり着きました。病床にいながら制作を続け、平面制作を超えて南仏ヴァンスのドミニコ会修道院のロザリオ礼拝堂の建物から修道服までデザインしました。

▶金魚

金魚はマティスの作品によく登場するモチーフです。1912年にモロッコを訪れた際、現地の人々が、金魚を飽きずに眺めている平穏なライフスタイルに感動し、マティスにとって金魚は心の平安を象徴するモチーフとなりました。画商からは「金魚の巨匠」と呼ばれていました。

右の作品よく鑑賞してみよう。

鮮やかな金魚がとてもかわいい！
もしかしたら狭い瓶の中で窮屈そう？
周りの色はどのような印象だろう？
写真のようにリアルに描かれずざっくりと色が塗られていたり、模様のように植物が配置されている。

どのように感じたか、報告課題に感想を書こう！



「金魚」
アンリ・マティス
プーシキン美術館
1912